

(11)

2012年(平成24年)3月5日 月曜日

# 潮流

倉吉での生活最後の月に入り、過日行われた集会での「鳥取中部市」発言に落とし前を付けた。

集会は、1市4町の中部地区が「鳥取中部ふるさと広域連合」(以降、広域連合)たる協力連携体制を組みながら、さらに昨年「中部はひとつ」との一致協力を未来中心



NPO法人未来地域マネジャー

光森 明

ホールで公言したにも関わらず、何らの成果結果が出ないのはなぜかと進行役からの提起があり、打開工夫の策を議論として求める流れであった。前提として鳥取県での人口減少と経済沈降があったから、指されて口に

実際に稼働しているならば、別段に1市4町の行政区分を堅持する必要はないと思われる。同時に広域連合の機能に教育、福祉、公共工事の部門を付け加えれば、それでそのまま一つの行政組織が成立すると考えるの

## 鳥取中部市

たのが、グタグタせずに鳥取中部市に収斂すべきとの発言だった。補足

だが、浅薄なことだろう。鳥取中部市に収斂すべきか？

景があつての1市4町だ

もちろんそれぞれの背景があつての1市4町だ

あらためて広域連合の組織概要を見ると、住民サービスを目とする市町村が繁栄して周辺が取り残

から、合併劇で往々にされる歴史文化伝統の消失危惧やら中心地域だけ市民を職員4人で切り盛りする方策で工夫すれば、何のことはない、納

かもしれない。だが、パインは大きく行政機能はシンプルにである。

合体すれば十万七千余の意欲満々、蠢く人々を羽合の4温泉地で張り巡らせたバリアーに県外観光客を取り込んで、とこ

(湯梨浜町)

お世話になった恩返し

が法螺放言になったが、